

Google Cloud Platform(GCP) 入門編トレーニング参加 報告書

第一技術班 松尾修二

開催日時：2018年12月12日 01:00 PM~06:00 PM

会場：アクロス福岡イベントホール（福岡市中央区）

受講料：無料

テーマ：「初めての Google cloud Platform」

[参加目的]

クラウドコンピューティングの言葉を耳にするようになって、数年がたった。近頃では、クラウドのプラットフォームである Microsoft Azure、AWS、GCP のサービスが広がりを見せ、大手企業も導入し始めた。そこでクラウドのプラットフォームがどのようなものなのかを学ぶため、GCP 入門編トレーニングへ参加した。

[アジェンダ(議題項目)]

1. Google Cloud Platform(GCP)概要
2. 事例紹介
3. Google Cloud Platform サービス概要
4. コンピューティング
5. ストレージとデータベース
6. 機械学習
7. 今後の学習の進め方

クラウドコンピューティングの将来

1. 企業、団体はサーバーを所有、運用しない、GCP、Azure、AWS等を利用する。
2. サーバー、セキュリティ担当者の負担削減
3. セキュリティ対策、機械学習環境、アプリケーション等の各種サービスが効率的に提供される。
4. 運用経費、セキュリティ対策費の削減

[参加後の感想]

この会に参加して感じたことは、これから将来に渡りサーバー等の物理端末の運用費用、セキュリティ対策に掛かる費用を考えたら、現在、自らサーバーを抱えている企業、公的機関の大部分が、今後10年ぐらいかけてGCP、Azure、AWS等のクラウドプラットフォーム利用するようになるだろうと感じた。現在すでに、GCPを導入し自社サーバーを持たない日本の大手企業が増えてきている。セキュリティ面を心配する声もあるが、Googleは、ここ3年で設備投資に約3兆円をかけている。このなかにはセキュリティ対策費も含まれているだろう。これからのセキュリティ対策の困難さと費用の増加を考えると、やはりクラウドプラットフォームの利用を選択する利点は大きいと感じた。また、GCPでは多くのアプリケーションを提供しているが、重複する機能を持つアプリケーションも多く、今後、整理されていくそうだ。